

学年	高校3年	教科	地理歴史	科目	日本史演習	単位数	4
教科書名	詳説 日本史 B (山川出版)			副教材名	最新日本史図表 (第一学習社) テーマ学習資料日本史		
コース クラス	スポーツ・芸能 スポーツ/芸能			担当者名	前川 藍		

I. 目標

1. 列島内の人々の歩みを学ぶだけでなく、我が国と諸外国や諸地域との関係を基本的な枠組みの中で理解する。多くの事象を題材に用いて歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
2. 基礎知識の定着と、変わる入試にあわせ、身につけた知識を活用し多角的な視点で物事を考えられる力を養う。
3. 基礎学力到達度テスト、共通試験、一般受験にも対応できる実力を身につけさせる。

II. 授業のねらい

1. 授業内容を精選した上で、基礎学力到達度テストに対応できる基礎力・応用力を身につけるために諸種の問題演習を実施する。
2. 通史に対する把握・理解を促し、生徒各自に一定の歴史観を育成する。
3. 講義型の授業に加え、アクティブラーニング型授業も適宜取り入れることで多角的な理解を図る。また、より深い理解を得るために、ICT教材も積極的に使用して基礎的項目の確認だけでなく、さらなる興味関心を喚起する。

III. 授業の進め方

1. 講義 (3 単位分が目安)
 - ①シラバスに沿った授業展開を基本とする。
 - ②演習 (1 単位分) に該当する内容を扱うことがある。
 - ③9 月末までに基礎学力到達度テストの共通試験範囲を学習し終えた場合、単元を進めることよりも復習に重点を置き、演習中心となる。
2. 演習 (1 単位分が目安)
 - ①9 月までは基礎学に対応する範囲を対象に演習に取り組む。
 - ②問題集より抜粋したものや基礎学の過去問を使用し、小单元ごとに小テストを実施する

IV. 学習上の留意点

1. 大まかな基礎知識で通史の軸をつくってから、細かい知識を追求していくように意識すること。
2. 用語の暗記のみではなく、様々な出来事の因果関係を意識しながら、自分の言葉や図表に置き換えて理解すること。
3. 板書の書き写しだけではなく、授業内の解説から要点を聞き分けてメモすることで理解を深める努力をすること。
4. 時代ごとに整理しながら学習に取り組むこと。
5. 一度に大時代の学習に臨むのではなく、適宜小さな区切りを設けて取り組むこと (週ごとの復習は必須となる)。

V. 定期試験

- 1 学期中間試験 : 織豊政権～幕藩社会の構造
- 1 学期期末試験 : 幕政の安定 ～ 化政文化
- 2 学期中間試験 : 近代国家の成立 ～ 二つの大戦とアジア
- 2 学期期末試験 : 二つの大戦とアジア ～ 激動する世界と日本

VI. 評価の方法

各学期の定期試験、小テスト、提出物、課題などの総合評価。

VII. 授業計画

学期	月	単元	試験等	学習目標	
一 学 期	4	第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造	小テスト	織豊政権下、中世的社会から近世的社会へと移り変わる様子について、政治史を中心に軸をつくり、経済、文化の側面から理解を図る。 ／幕藩体制の特徴を、それまでの幕府の在り方と比較しながら考察し、“近世”として括られる時代である理由を理解する。	
	5	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定		中間試験	／武断政治、文治政治それぞれの社会背景を理解し、近世社会が変容する端緒をつかむ。 経済の発展を確認しながら、都市部の多様な発達への理解を得る。 天下の台所と呼ばれた大坂の繁栄を背景とした町人文化と、政治と実学を基盤とした儒学文化を考察し、元禄文化の二大支柱を理解する。
	6	2 経済の発展 3 元禄文化	小テスト	三大改革の時代背景に留意しつつ、幕府が衰退していく過程を理解する。特に以下の点に気をつけたい。 ・宝暦、天明期の文化では、民衆生活に焦点があてられたことの意義を、浮世絵や名所図会などから考察する。 ・幕藩体制が動揺する中で、体制への批判的視点が醸成され、近代を準備した点を理解する。 ・商品経済と交通・通信の発達を背景に、文化の担い手が庶民層へと広がったことを理解する。	
	7	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道			期末試験
		4 化政文化			

二 学 期	9	*基礎学力到達度テストまで総復習を行う。		
		第9章 近代国家の成立		
		1 開国と幕末の動乱		
		2 明治維新と富国強兵		
	10	3 立憲国家の成立と日清戦争	基礎学力到達度テスト	日本が開国する過程を国際的な視点から考察する。／戊辰戦争と並行して行われた、新政府による近代化・西洋化の各種政策について考察する。／条約改正交渉を概観し日本の国際的地位を理解する。／日清戦争・日露戦争に至る原因と結果を理解し、日本の国際的地位の変化を考察する。／立憲政体樹立の過程と、桂園時代にいたる国内の動向を考察する。／我が国の産業革命について考察する。
		4 日露戦争と国際関係		
		5 近代産業の発展		
		6 近代文化の発達	小テスト	
		第10章 二つの世界大戦とアジア		
		1 第一次世界大戦と日本		
	2 ワシントン体制			
	3 市民生活の変容と大衆文化			
11	4 恐慌の時代	中間試験	第一次世界大戦に至る国際関係と大戦の過程とその結果について考察する。／民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、政党内閣制成立の意義を考察する。／日本の東アジア進出と国際協調体制の成立が、日本外交へ与えた影響を考察する。／大戦後の社会運動の勃興を捉え、戦前における政党政治の到達点とその限界を考察する。／昭和初期の経済恐慌がその後の軍部の政治的進出の要因となることを理解する。／政党内閣の崩壊や国際的孤立にいたる過程について考察する。／日中戦争から太平洋戦争へいたる過程を概観し、同時に全体主義的な国家体制が進展した要因を考察する。	
	5 軍部の台頭			
	6 第二次世界大戦	小テスト		
	第11章 占領下の日本			
	1 占領と改革			
12	2 冷戦の開始と講和	小テスト	占領政策及び戦後の民主化政策と諸改革について考察し、新憲法制定の意義を理解する。また、冷戦の開始をふまえ、占領の終結と日本の主権回復の過程及び、今日まで続く日米安保条約の締結とその意義を考察する。	
	第12章 高度成長の時代			
	1 55年体制			
	2 経済復興から高度成長へ			
	第13章 激動する世界と日本			
	1 経済大国への道			
	2 冷戦の終結と日本社会の動揺	期末試験	経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。／冷戦の終結と国内の状況について、政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的に考察する。	
	各種模試・センター対策・問題演習			

※ シラバスの内容については、進捗状況、理解度、その他の都合により変更することがある。